

海草郡，有田郡を中心として

和歌山信愛女短大 千森 督子

1. 目的 和歌山の民家でも紀ノ川流域に関しては，すでに近畿支部で発表しているが，本報では小規模で古い形式を残し，似た様相を示していると指摘されている貴志川，有田川流域の民家を取り上げ考察する。

2. 方法 貴志川流域では海草郡美里町を，有田川流域では有田郡金屋町を中心に比較的年代の古い農家住宅を抽出し，昭和62年に実測調査と聞き取り調査を実施した。

なお間取り形式では「和歌山県の民家」で取り上げられている事例をも含め考察した。

3. 結果 両地域とも平野が少なく，集落の多くは山肌に沿うように構成されている。そのため各家の敷地は奥行が浅く，納屋や離れ等の付属屋が多く，主屋の両側に並列して配置されている。

主屋の大半は平入り形式であるが，敷地条件から必ずしも南入りではない。座敷などの拡張は少なく，一般的に家屋規模は小さい。間取り形式としては，年代の新しいものでは土間境食違い四間取や整形四間取が多くなるが，古いものには前広間三間取型もみられる。この場合，表は「デイ」「デエ」と呼ばれている10畳ほどの座敷で，裏は私的空間の「なんど」「おくなんど」である。貴志川流域では，さらに土間側に「だいどころ」が張り出す形態がみられる。「だいどころ」は土間境に建具がない開放的な造りで，居間や食事室として使われている。

引用文献 和歌山県教育委員会 和歌山県の民家 1969